

秘密のつもりでも 公開されるのが インターネット



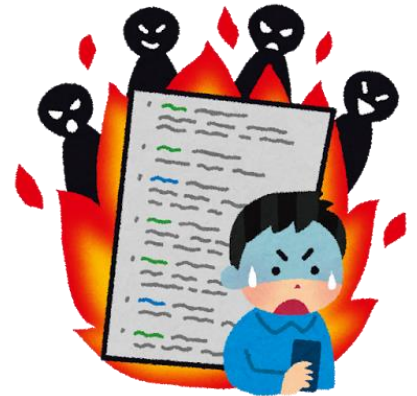
大人にとっては「公開の場」であるインターネット上に何かを書き込むのは緊張することです。万が一トラブルになったら困ると考えると、手が止まります。

でも子供たちは、怖さをまるで感じていないかのようです…。

自分の書き込みなど注目を集めるわけがない

子供たちに人気のあるブログや交流サイトには世界中からたくさんの書き込みがあります。普通に使っている限り、「友人以外の目に触れることは無い」と子供たちは自然に考えるかもしれません。

しかし、ちょっとしたキッカケで投稿内容が急に注目を集めることは珍しくありません。ネット上で批判的なコメントなどが殺到している状況を「炎上」と呼びますが、対象は有名人に限らず、これまでに多くの「普通の子」がその対象となります。



二人だけ、グループ内だけだから大丈夫

ブログなどが公開されるのは当然としても、「メールやメッセージを使ったやりとりなら秘密は守られるのでは？」と大人でもつい誤解しがちです。

もちろん、サービス提供事業者からやりとりが漏れることは普通では考えられません。でも、やりとりの相手や参加グループの誰か一人が、やりとりの画面を画像として保存して、外部に送ってしまったら…。

インターネット上にはそのようにして「流出」してしまったプライベートなやりとりが数多く「公開」されています。



指導の要点

情報モラルの指導で取り扱う「インターネットの特性」では、子供たちの理解不足や誤解が目立ちます。それは、本テーマの「公開性」にも言えることです。

上記の例以外にも、俗に言う「鍵付き」など、自分の記事をパスワードで保護すれば、身内以外からは絶対に見られないとたかをくくっている子供は少なくありません。秘密はその身内から漏れることもあることを理解させる必要があります。

また、世の中の多様な価値観に触れる機会の少ない子供たちは、自分が知っている世界の中での評価が絶対的なものになりがちです。「公開される＝さまざまな評価基準で判断される＝思わぬところで批判を受ける」という点についてもあわせて伝えることが望まれます。